

## ラジオ沖縄 2012 年度 第 1 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2012 年 4 月 19 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、上原康司、委員/島田勝也、大湾清之、松田克也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小橋川響、番組担当ディレクター/安村美和子

◇審議議題:「麻子邸へようこそ」聴取合評

◇議事の概要:毎週土曜日午後 4 時 30 分～5 時放送中の「麻子邸へようこそ」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

### <局側説明>

元泡盛の女王で、現在は泡盛ルポライターとして県内外で活躍している富永麻子。架空の隠れ家「麻子邸」に起業家やアーティストなど毎回多彩なゲストをお招きするトーク番組。ゲストのイメージに合ったおつまみを一品紹介し、沖縄料理に拘らず、性別、世代、嗜好に合わせた料理のレシピを紹介する『あなたのレシピ』コーナーや、「海の彩(30 度、35 度)」「残波プレミアム」の中からゲストの好みに合わせた飲み方をお勧めする。泡盛にまつわる思い出話を聞きながら、ゲストの活動内容や豊富等を伺う。今回(2 月 25 日放送回)のゲストはジュンク堂那覇店の森本浩平店長でした。

### <審議概要まとめ>

ゲストの人数がよく、ゲストの話が非常に面白いが、2週に分けて放送するとどちらかを聞き逃すリスナーもいる。

1週に凝縮して放送するという形もありだと思ふ。

番組で流す曲はゲストの好みの曲なので、流すタイミングに気をつけないと、それまでの雰囲気や壊す危険性がある。

ゲストから「プロの一言」を引き出すような質問や毎回必ずする質問などがあれば、番組がより締まったものになる。

## ラジオ沖縄 2012 年度 第 2 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2012 年 5 月 17 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:5 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、上原康司、委員/島田勝也、中村聡

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小橋川響、番組担当ディレクター/阿利貴子

◇審議議題:「mary's jam」聴取合評

◇議事の概要:毎週土曜日午後6時30分～7時放送中の「mary's jam」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

### <局側説明>

DJ田仲メリアンがお届けする洋楽専門番組で、「クラブへ行きたくなっちゃう番組」がコンセプト。クラブでかかるR&BやHIP-HOP、レゲエ、90年代から最新ヒットナンバーを中心に紹介する。番組前半は新曲紹介コーナーとメッセージ紹介 & リクエスト曲2曲。

後半は週替わりでコーナーを展開する。

第1週は「バック・アト・モーメント」。オンエア日の10年前、5年前、1年前のアメリカのランキング billboard hot100 の上位40位から各年代2曲ずつ特集。

第2週は「アーティスト特集」。

第3週は「the roots」。カバーやサンプリングされている曲をオリジナルと聞き比べるコーナー。

第4週は「リクエスト特集」。普段はかけないようなロックやポップな曲にも対応している。

第5週はフリー。田仲メリアンが思いついた企画やリスナーからのリクエストを受けて自由なコーナーにする。

### <審議概要まとめ>

沖縄訛りや方言がでてくるなど、AM波らしい地元色のある音楽番組で魅力的。最新の音楽番組でありながら、一方向でない親しみを感じさせる。

アーティストや曲に対する愛情が感じられる番組で、パーソナリティーとリスナーのディープなネタのやりとりが面白い。

話の流れ・テンポがよく、鍛えられているパーソナリティー。選曲も通り一遍ではなく玄人好みで、こだわりを感じる。

曲だけでなくメールも多く紹介しており、リスナーの声をよく拾っている。ただし、メール文中の「(笑)」は内容によって読み分けた方がよい。

これまでのラジオ沖縄にはない番組。若い世代に向けた内容の放送だが、従来のラジオ沖縄らしさを残しながら次世代のリスナーを獲得する新しい世代の番組だ。

## ラジオ沖縄 2012 年度 第 3 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2012 年 6 月 21 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:7 名

◇出席委員:副委員長/新城和博、上原康司、委員/島田勝也、中村聡、大湾清之、友利郁子、松田克也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小橋川響、番組担当ディレクター/中村雄一郎

◇審議議題:「真栄平仁劇場3 ～復帰っ子40にして」聴取合評

◇議事の概要:2012年5月14日(月)21:00～21:30に放送された「真栄平仁劇場3 ～復帰っ子40にして」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

### <局側説明>

ラジオ沖縄の月曜日～金曜日のお昼の生放送番組『ティーサージパラダイス』のパーソナリティーを務めるひーぷーこと真栄平仁は、劇団O.Z.E(オゼ)の頭(かしら)、脚本・演出家としての顔も持っている。そんな脚本・演出家としてのひーぷーにスポットを当てた企画として昨年8月からスタートさせたラジオドラマ第3弾。今回のテーマは「沖縄本土復帰40周年」。沖縄が本土復帰した1972年に生まれた人々、いわゆる“復帰っ子”と呼ばれる人々の同窓会を舞台に、久しぶりに会った同級生たちの姿に驚きながらも当時を振り返り、その心情を中心に展開していく。このドラマはその後6月2日、3日に那覇市のとんぶすホールで行われた劇団O.Z.Eの第41回本公演「72 ‘ライダー(ナナニーライダー)」のストーリーへとつながりをもたせた内容となっている。

### <審議概要まとめ>

沖縄に生きる人々にとって米軍基地にかかわる理想と現実とは常につきまとう問題。沖縄の理想の姿を考える機会を与える番組であったが、「復帰40年」につながる深みが足りない。単純な娯楽としては楽しいが、タイトルに「復帰っ子」を使うならばもっとメッセージ性がほしい。

「復帰っ子」は復帰を知らないので、語れることに限界がある。50代・60代などの「復帰を知る世代」の視点や女性の視点での語りなどがあれば、さらにテーマを深めることができた。舞台公演へとつながる内容ということだが、登場人物や設定が繋がっているだけで、ラジオドラマから舞台への意味的な布石がない。深く重いテーマを扱う舞台への入口としてのラジオドラマだと思いが、もっと深みを持たせてほしい。

登場人物のくだけた会話は沖縄の40代の日常会話をイメージしたものであると思うが、聞き手によっては不快に感じることもある。方言の使い方として「正しい・間違っている」ということではなく、耳触りのいい言葉遣いやセリフ選びを心がけることは大事。

登場人物の1回あたりのセリフが多いせいでドラマが騒がしい。余計なセリフは削いだ方がメッセージも強調されるし会話にもテンポが出る。

## ラジオ沖縄 2012 年度 第 4 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2012 年 7 月 19 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:7 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、上原康司、委員/島田勝也、大湾清之、友利郁子、松田克也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小橋川響、番組担当ディレクター/中村雄一郎

◇審議議題:「空からジェット機が降って来た ～宮森小ジェット機墜落事故の記憶」聴取合評

◇議事の概要:2012年6月23日(土)13:30～14:00に放送された「空からジェット機が降って来た ～宮森小ジェット機墜落事故の記憶」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

### <局側説明>

沖縄戦から15年が過ぎた1959年6月30日、旧石川市(現・うるま市)の宮森小学校にアメリカ軍のジェット戦闘機が墜落、炎上した。18人の命が奪われ、遺族や被害者たちは今も終わりのない悲しみや怒りを抱き続けたまま苦しんでいる。今年には沖縄の本土復帰40年。オスプレイの沖縄配備が検討される中、ジェット機墜落事故から変わらない沖縄の空を見上げて、亡くなった子供たちは何を思うのか。家族の悲惨な死に直面し、口を閉ざす遺族が多い中、二度と同じ悲劇を繰り返してはならないという思いから語り部として活動する遺族たち。彼らの証言や活動を伊波紗友里アナウンサーが取材しました。

### <審議概要まとめ>

- ・映像のあるテレビや書き手の表現力に左右される新聞・雑誌とは違い、言葉の迫力がそのまま伝わってくるのはラジオならではの。
- ・映像として流すことのできない悲惨な状況もラジオであれば証言として語ることができ、聞き手の想像力を超えた当時の悲惨な状況を伝えることができる。
- ・証言の一つ一つが重く、音の持つ力の大きさを実感させられた。ラジオの果たす役割とは、こうした「音」の力を聞き手に届けること。
- ・オスプレイ配備問題とも自然に結びつく内容になっている。オスプレイとも共通するテーマをはらんでいることは、聞き手の問題意識を刺激する。
- ・日本全国の問題として考えるためにも、この事故取材を通して、その他の地域でのジェット機墜落事故についても掘り起こしをしてもらいたい。
- ・戦後の沖縄が未だに非日常の中にあり、事故当時と現在が根本的に何も変わっていないということが分かる。
- ・当時の話だけでなく、石川高校の生徒への取材を通して未来へのビジョンを込めていることも素晴らしい。
- ・沖縄の時代を切り取るような証言になっており、全国の子供たちにも授業などで聞いてほしい。
- ・ナレーションはもっと静かにゆっくり丁寧に読んで。
- ・番組後半で若い世代へ「バトンは引き継がれている」という表現がされているが、そこまで言い切ってもいいのかと感じる。

## ラジオ沖縄 2012 年度 第 5 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2012 年 9 月 20 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:5 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ 副委員長/新城和博,上原康司 委員/島田勝也,友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小橋川響

◇審議議題:報道特別番組「オスプレイ配備に反対する県民大会」聴取合評

◇議事の概要:2012年9月9日(土)11:00～12:30に放送された報道特別番組「オスプレイ配備に反対する県民大会」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

### <局側説明>

県民大会会場となる宜野湾市の多目的広場に特設スタジオを設置して実況中継を行う。「オスプレイ配備に反対する県民大会」の会場から、大会関係者の挨拶や一般参加者らの声を、ラジオを通して紹介し、オスプレイ配備に対する県民の声を伝える。

### <審議概要まとめ>

- ・沖縄のマスコミとして、立場やスタンスを明確にするこうした番組を放送するのはよい。
- ・参加者へのインタビューが面白い。ユーモアを交えた質問でさまざまな声を聞くことができている。沖縄の人々の怒りだけではない意見や気持ちを引き出しており、会場に渦巻く感情が分かる。放送にのったヤジも、会場の雰囲気伝えてよい。
- ・幅広い層の会場の声を拾っていてよいが、年齢や職業などの基本的なデータをもう少し掘り下げてインタビューできていれば、聴取者もインタビューに答える人の言葉に込められた思いを汲み取りやすかった。
- ・事前にラジオで番組告知をしておけば、聞いていた聴取者がレポーターのもとに来たのではないか。そうすれば、もっとさまざまな声を集めることができたかもしれない。
- ・説者の話が明快で分かりやすく、今回の県民大会が開催された経緯やオスプレイの問題点などが聞き手にも伝わりやすかった。
- ・千葉から参加したという方の声に「本土の人間の無気力・無関心」という言葉があったが、一聴取者として、当事者にならないと分からないのだろうかという焦りのようなものを感じる。

## ラジオ沖縄 2012 年度 第 6 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2012 年 10 月 18 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:5 名

◇出席委員:副委員長/新城和博,上原康司 委員/松田克也,大湾清之,友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小橋川響、番組担当ディレクター/阿利貴子

◇審議議題:報道特別番組「めーぐーの三線十色 まじゅんみーくふあやー」聴取合評

◇議事の概要:議事の概要:毎週日曜午前5:00～6:00に放送中の番組「めーぐーの三線十色 まじゅんみーくふあやー」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

### <局側説明>

2012年5月27日より放送開始。

沖縄の古典音楽・民謡を紹介する早朝の目覚まし番組としてスタート。

パーソナリティーを務める新垣恵は野村流古典音楽保存会教師で、胡弓や太鼓、三線などの楽器も演奏する。本土や中国留学時に沖縄のアイデンティティを感じて、帰沖後に社会人として働きながら三線を学ぶ。現在は組踊りや琉球舞踊の地謡(じかた)・演奏者として活動するかたわら、ホテルや民謡酒場で民謡ショーを開くなどして活動。

女性地謡の会「しほら」のメンバーとして活躍中。

### <審議概要まとめ>

- ・日曜の早朝放送なので、聞く世代をかなり狙った番組づくりをされていてよい。
- ・古典作品は一般の人には高尚・かたいというイメージがあるが、喋り言葉でいただいた解説があるので取り付きやすく、古典入門のような番組になっていて素晴らしい。
- ・三線の音だけ、あるいは歌だけという演奏形態もやってみてはどうか。琉球古典音楽は民族音楽の性質を持っているので、従来の演奏のあり方にとらわれない冒険的な取り組みにも期待したい。
- ・出演するゲストも県外出身の琉球民謡歌手など変わった人が多くて話が楽しく聞けるうえ、沖縄の民謡や古典音楽が県や国という垣根を越えるものであるというメッセージ性が強く伝わってくる。
- ・現在では琉球古典音楽を歌える若い女性唄者も増えてきている。そうした層に対して強くアピールできるだけでなく、県外出身の古典唄者にも参考・勉強になる番組。
- ・従来は男性の世界であった琉球古典音楽を女性唄者が歌うという取り組みをやってみると更に面白く、実験的な番組になるだろう。
- ・琉球古典音楽と若い女性パーソナリティーを結びつけたことは意義深く貴重。

## ラジオ沖縄 2012 年度 第 7 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2012 年 11 月 15 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:4 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ 副委員長/新城和博 委員/大湾清之、友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小橋川響、番組担当/波平勇気

◇審議議題:報道特別番組「ニライカナイパラダイス」聴取合評

◇議事の概要:毎週日曜午前3:30～4:00に放送中の番組「ニライカナイパラダイス」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

### <局側説明>

番組パーソナリティー陣が、沖縄の歴史や文化、民話をゲストとして登場する喜納昌吉に話を伺いながら、紹介していく。語りに合わせて喜納昌吉&チャンプルーズの曲や沖縄民謡・ポップスを選曲してお届けするトーク&音楽番組。番組後半では喜納昌吉&チャンプルーズの代表曲「花～すべての人の心に花を～」の、世界各国でのカバーバージョンを紹介する。

### <審議概要まとめ>

・沖縄の歴史を喜納さんが語るコーナーは、説明が粗い。ある程度沖縄の歴史に対する知識がないと理解しにくい部分も多いので、もう少し時間をかけた丁寧な説明を。また、喜納さんの歴史観と最近の研究によって明らかになっている歴史像に違いがあるので、そこを説明するなどのフォローも必要。

・世界各国の「花～すべての人の心に花を～」のカヴァーを紹介するコーナーは、本家の「花」との歌い方やリズムの違いなど、聞いていて非常に面白い。この曲の素晴らしさがよく分かるコーナーになっている。

・喜納さんの曲を紹介するコーナーでは、喜納さん自身に曲の解説や思い出などを語ってもらうと、リスナーもさらに興味深く聞けるのでは。

・喜納さんの曲を紹介するコーナーが充実しているので、「音楽家・喜納昌吉」としての番組であるということ进行全面に出してほしい。

・沖縄の歴史に触れていく中で、民族意識に関わる話もあり、次回以降も気になる番組。ただし、歴史・文化の話は政治とも絡みやすいので、そうした部分には慎重になる必要がある。

## ラジオ沖縄 2012 年度 第 8 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2013 年 1 月 17 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:7 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ 副委員長/新城和博,上原康司 委員/大湾清之,松田克也,島田勝也,友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小橋川響、番組担当ディレクター/阿利貴子

◇審議議題:報道特別番組「チャレンジラジオ 新唄大賞 in HAWAII 2012」聴取合評

◇議事の概要:2012年11月14日(日)午後8時00分～9時に放送された「チャレンジラジオ 新唄大賞 in HAWAII 2012」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

### <局側説明>

ラジオ沖縄では沖縄传统文化の継承と発展を目的に1990年から沖縄民謡の新曲コンクールを毎年開催している。1995年からはグランプリ受賞者をハワイ・ホノルル市へ派遣し、カピオラニ公園で開催されるハワイオキナワ県人連合会主催の「ハワイオキナワンフェスティバル」でハワイ県系人の前で沖縄民謡を披露していただいている。昨年第23回の新唄大賞は、本土出身者の伊藤幸太さんが初挑戦で見事グランプリを受賞し、ハワイのステージを盛り上げた。番組ではそのフェスティバルでのステージの模様のほか、フェスティバル主催者や来場者のハワイ県系人たちの沖縄への思いを紹介した。

### <審議概要まとめ>

- ・せっかくハワイに来ているのだから、フェスティバル会場の臨場感や雰囲気は伝わるよう、もっと会場の音がほしい。
- ・沖縄県系人が沖縄への思いを語る声には力があり、非常によい。もっとこういう音を拾いたいと思わせる。普段、海外の沖縄県系人の声や思いを聞く機会が少ない沖縄の人々にとっても、改めて自分たち根っこの部分を見つめなおす機会を与える有意義な番組だ。
- ・エイサーの道ジュネーの復活やウンケー・ウークイ(沖縄の旧盆で先祖の霊を迎える儀式・送る儀式)がハワイでも行われたという「伝統への回帰」が起こっているということが興味深い。その理由などに迫れるとなお面白い番組になる。
- ・改めて、海外のウチナーンチュが沖縄の誇りを大切にしているということが伝わってきた。海外の県系人との交流のためにも、ウチナーグチ(琉球方言)をもっと残していく必要性を感じるような良い番組だった。
- ・伊藤さんの民謡に取り組む姿勢の素晴らしさが彼の語りから分かるのも良い。そういう人たちを発掘していくことが地元ラジオ局の役目ではないか。
- ・海外の県系人を歓迎したり、してくれたりという交流も海を渡って苦労した1世や2世が生きているうちが強いだろう。その方々がまだ元気なうちにもっと彼らの声を残しておきたいと思ったし、どんどんこうした番組を作ってほしい。



## ラジオ沖縄 2012 年度 第 9 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2013 年 2 月 21 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ 副委員長/新城和博,上原康司 委員/大湾清之,松田克也,島田勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小橋川響、番組担当ディレクター/金城奈々絵

◇審議議題:「発見へ挑め! 大山盛保物語」聴取合評

◇議事の概要:2012年12月29日(土)午後3時00分～3時30分に放送された「発見へ挑め! 大山盛保物語」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

### <局側説明>

今からおよそ1万8千年前に沖縄に住んでいたとされる「港川人」。日本人のルーツを探る上で欠かすことのできない人骨化石で、これまで4体が八重瀬町の港川で出土しました。1970年に人骨が発見されて以来、専門書や教科書などおよそ200冊にその重要性が記述されていますが、発掘したのが一般の実業家ということあまり知られていません。発見者は、当時ガソリンスタンドを経営していた会社社長の大山盛保氏。自身が54歳の時、庭に池を作るために石を購入した大山さんは、石材の中にイノシシの化石を発見します。イノシシの化石があるからには、動物を食料としていた人間の骨も見つかるに違いないと考え、発掘現場へ通い続けました。社長業の傍ら、発掘に情熱を傾けた大山氏。たゆみない努力が実り、1970年8月10日、ついに港川人骨を発見します。生誕から100年を迎えた去年、日本人類学会は大山氏の功績をたたえ、平成24年度「日本人類学会功労賞」を授与しました。番組では生前の大山氏の声を紹介するとともに、周囲の研究者や家族にマイクを向けて、発掘現場へ「通い続けた日々」を振り返ります。

### <審議概要まとめ>

・大山氏の背景・人物に迫っているのがよい。よくまとまっていて、流れもよい。研究者であり、経営者でもある氏の人となり面白かった。大山氏がなぜ発掘にこだわったのか、その情熱や信念がよく分かる構成になっている。沖縄の人は骨にまでアイデンティティーを求めるが、そうした興味をかきたて、満たすような番組だった。

・沖縄という地域環境の特性、動植物の特異性を一般の人に知ってもらうのに良い番組。人物だけにおさまらず、沖縄の気候風土や歴史にも目がいく作りになっている。こういう雑学的なところから人物や歴史に迫る入門のような番組はもっとあってもよい。

・ただし、大山氏を知らない人のために冒頭で氏の業績などについて概説があれば、さらに理解が深まる。

・沖縄の観光資源にもなる港川人は先人が遺してくれた(発見してくれた)ものだということが強く伝わってくる。港川人のように、先人が我々に遺してくれたもの、業績などについてさらに知りたくなる。

・大山氏の生誕100年ということでの企画番組だが、今回だけでなく、その他の生誕100年のウチナーンチュについても特集してみてもどうか。

## ラジオ沖縄 2012 年度 第 10 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2013 年 3 月 21 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:8 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ 副委員長/新城和博,上原康司 委員/大湾清之,松田克也,島田勝也,中村聡,友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小橋川響、番組担当ディレクター/波平勇氣

◇審議議題:「発見へ挑め! 大山盛保物語」聴取合評

◇議事の概要:毎週月曜日の午後11時30分～12時00分に放送されている「雄大の夢航路」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

### <局側説明>

芸能活動40周年、演歌道25周年のうえち雄大。番組では自らの経歴を辿りながら、全国デビュー曲『おふくろ慕情／哀愁の宮古島』を紹介。ネオン街キャンペーンの苦労話や、生まれ故郷宮古島の人頭税廃止に尽力した人々の曲を作成。恩師・市川昭介が作曲した昭和の名曲を紹介。番組開始時はタレントのなおぴんとコンビで放送していたが、今月から伊波紗友里アナウンサーとのコンビに変更している。

今回の番組審議委員会では2013年3月18日放送回を聴取していただく。

### <審議概要まとめ>

- ・聴取者を広げるのか、ディープに狭いくのか、番組の方向性をしっかりと打ち出してほしい。
- ・曲を時間が非常に長いのに比べて、うえちさんの語りが短すぎる。波乱万丈の人生を送ってきている方なので、もっと時間をとって自分のことを話した方が聞いている人を引き付けられるはず。
- ・演歌は聞き慣れていない人も多く敷居が高いので、自分の曲だけでなく誰もが知っている演歌の名曲を流すなどしてほしい。その名曲がヒットしている時に自分はこうだったというような語りをしてみてはどうか。
- ・初めて聴く聴取者のために、コーナーや人頭税などについては毎回きちんと説明を入れて。新たな聴取者のための“入口”はつねに開けておいてほしい。
- ・人頭税の話は興味深い。沖縄の歴史にも触れるきっかけとなる。少数に不公平を押し付けるこうした制度は世界中に見られる。今の時代も無視できない題材。
- ・うえちさんの世界にどっぷりいくなら、いっそのこと進行はうえちさん一人でもいい。伊波さんはもっとうえちさんの懐に飛び込むような絡みができるとうい。